

移転開館5周年記念 令和6年能登半島地震復興祈念

工芸と天気展

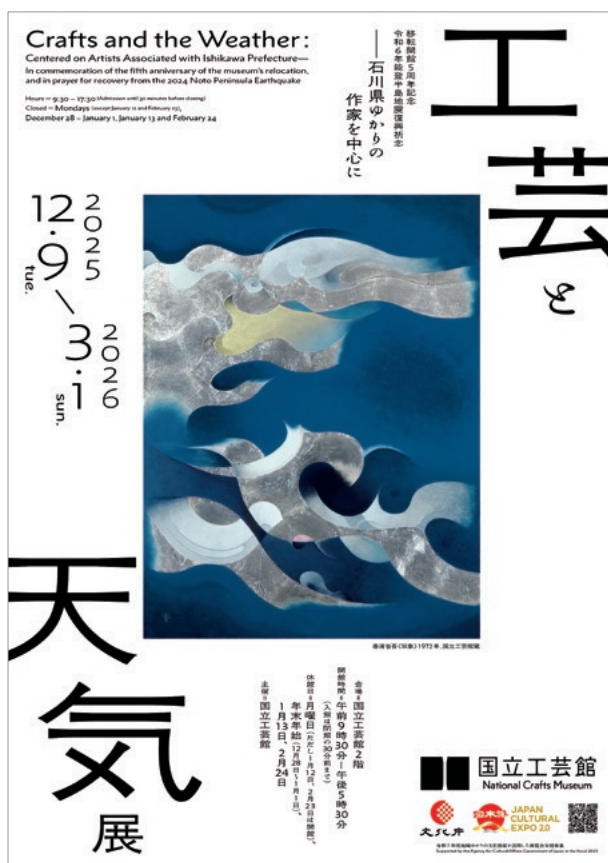
―石川県ゆかりの作家を中心に―

Crafts and the Weather :

Centered on Artists Associated with Ishikawa Prefecture –

In commemoration of the fifth anniversary of the museum's relocation,
and in prayer for recovery from the 2024 Noto Peninsula Earthquake

12月9日(火) ~ 3月1日(日)



会場：国立工芸館2階

会期：2025年12月9日(火)～2026年3月1日(日)

会期中一部展示替えあり

〔前期:2025年12月9日(火)～2026年1月18日(日) 後期:2026年1月20日(火)～3月1日(日)〕

開館時間：午前9時30分～午後5時30分(入館は閉館の30分前まで)

休館日：月曜日(ただし1月12日、2月23日は開館)、年末年始(12月28日～1月1日)、1月13日(火)、2月24日(火)

観覧料：一般 1,200円(1,100円)／大学生 700円(600円)／高校生 500円(400円)

* () 内は20名以上の団体料金および割引料金

* いずれも消費税込

* 中学生以下、障害者手帳をお持ちの方と付添者(1名)は無料。

* 文化の森おでかけパス(一般のみ)をお持ちの方は割引料金。

* MOMAT支援サークルパートナーおよび外国人を引率し通訳案内のために同行する通訳案内士は無料。

* キャンパスメンバーズ加入校の学生・教職員は、学生証・職員証のご提示で割引料金。

* 石川県立美術館・金沢21世紀美術館・石川県立歴史博物館・石川県立伝統産業工芸館(いしかわ生活工芸ミュージアム)・金沢市立中村記念美術館の主催展覧会入場券半券を窓口で提示した方は割引料金。

* オンラインによる事前予約もあり

主催：国立工芸館

掲載用問い合わせ先：050-5541-8600(ハローダイヤル)

「天気」をキーワードに工芸の魅力に迫る 石川県ゆかりの作家を中心とする約60点の作品を紹介

展覧会概要

令和6年1月1日に発生した能登半島地震は、石川県を中心とする北陸地方に甚大な被害を及ぼしました。約2年が過ぎた今なお、復興は道半ばの状況となっています。本展は、被災地の一日も早い復興を祈念し開催する展覧会で、工芸と天気の関わりをテーマに、人間国宝17名を含む石川県ゆかりの作家を中心とした工芸作品をご紹介します。

日本海に面し、豊かな山々を有する北陸地方。海から吹いてきた風は山を越え、やがて街や里山に湿潤な気候を運んできます。こうした気候は、四季を通して人々の暮らしと関わりながら、北陸地方の工芸に恵みをもたらしてきました。たとえば、空気中の湿度を取り込むことで固まる漆にとって、潤いを含んだ空気は好条件です。また、冬の深雪は、山の土壌や岩盤に染み込んでやがて河川の水となり、かつては加賀友禅の一工程であった「友禅流し」を支えてきました。

天気は一日として同じものではなく、刻一刻と変化します。天気の変わりやすい北陸地方では、雲や風の変化に敏感になり、空を見上げる機会も多いのではないのでしょうか。一方、長く厳しい冬を過ごす人々だからこそ、春の訪れにひとしおの喜びを感じることもあります。この地に生きる作家のまなざしを通して工芸と天気を見つめ直すと、新たな発見があるかもしれません。

工芸の作家たちがとらえた移ろいゆく空もよう、春の息吹を感じさせる作品を通して、北陸の天気のもとで育まれた表現をお楽しみください。

※会期中に一部展示替えを行います。

本展のみどころ

● 誰にとっても身近な「天気」をキーワードに、工芸の魅力に迫る展覧会

私たちの生活と共にある天気は、工芸にも大きな影響を与えています。本展では、工芸と天気の関わりを紐解き、工芸の多彩な魅力に迫ります。

● 北陸の空もようを表現した工芸作品

雲や雪などの天気を表現した工芸作品を通して、北陸の空もようをお楽しみください。

● 人間国宝17名を含む、石川県ゆかりの作家を中心に紹介

松田権六、板谷波山、木村雨山などの人間国宝を含む、石川県ゆかりの作家を中心に紹介。輪島塗、加賀友禅、九谷焼など、石川県ならではの工芸作品にもご注目ください。

展示構成

1章 天気と生きる、天気とつくる

「弁当忘れても傘忘れるな」と言われるほど、北陸地方の天気は移ろいやすいことに特徴があります。こうした天気に対して、工芸の作家はどのように寄り添いながら作品をつくってきたのでしょうか。工芸と天気の関わりを通して、工芸の多彩な魅力に迫ります。



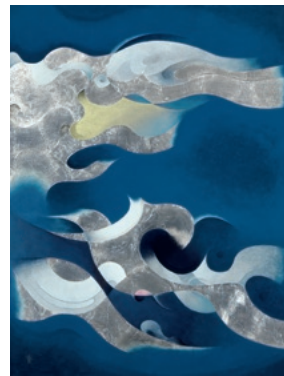
No.4



No.6

2章 空を見上げて／春を待つ

雲や雪など天気にまつわる現象をとらえた作品を紹介します。作家のまなざしを通して、北陸の空もようをお楽しみください。また、長く厳しい冬を過ごす人々にとって、春の訪れにはひとしおの喜びがあります。水ぬるむ季節に想いを馳せながら、春の息吹を感じる作品も紹介します。



No.7



No.11

同時開催

令和6年能登半島地震・令和6年奥能登豪雨復興支援事業

ひと、能登、アート。 アート文化財がつなぐ。Art for the Noto Peninsula

能登半島地震、奥能登豪雨からの復興を文化の力で応援するため、東京国立博物館をはじめとする都内の美術館・博物館が所蔵する多彩な作品が金沢の3つの美術館に集結します。当館では工芸作品を中心に国宝や重要文化財をはじめ誰もが知る名品の数々をご覧ください。

2025年12月9日(火)～2026年3月1日(日)

会場:国立工芸館1階

主催:石川県立美術館、金沢21世紀美術館、国立工芸館、石川県、金沢市、東京国立博物館

*「工芸と天気展」の観覧券でご観覧いただけます。



関連トークイベント

「輪島の天気・自然と作品制作」

日 時: 12月20日(土) 午後1時30分～午後3時 (開場 午後1時)

登壇者: 山岸一男 氏 (漆芸家、重要無形文化財「沈金」保持者)

会 場: 国立工芸館 多目的室

: 池津勝教 氏 (NHK金沢放送局「かがのと」気象予報士)

定 員: 45人 (要予約・要観覧券※半券可)

聞き手: 唐澤昌宏 (国立工芸館長)

主 催: 兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会

申込方法は当館ホームページをご確認ください。内容や日時は都合により変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

記者発表会・内見会

12月8日(月) 午前11時30分～午後1時 (受付開始 午前11時30分)

(記者発表 午前11時50分～午後0時30分)

一般公開に先駆けて報道関係の皆さまのみの発表会および内見会を行います。

参加ご希望の方は、申込書に必要事項をご記入の上、メールまたはFAXでご連絡ください。

次回展予告

ルネ・ラリック展 ―ガレ、ドームから続く華麗なるフランスの装飾美術―

3月20日(金・祝)～ 6月14日(日)

19世紀末から20世紀前半のフランスでデザイナーとして活躍したルネ・ラリック(1860-1945)の名品を、当館に寄託されている井内コレクションを中心に、ガレとドーム、そして同時代のインテリアデザイナーの作品もあわせてご紹介します。ジュエリーからガラスへと至るラリック芸術の全容とフランスを代表する巨匠たちの美の競演をお楽しみください。



ルネ・ラリック
《ブローチ 翼のある風の精》
1898年頃 国立工芸館蔵
撮影: エス・アンド・ティ フォト



国立工芸館
National Crafts Museum

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-2
<https://www.momat.go.jp/craft-museum>



アクセス バスにて JR金沢駅兼六園口(東口)より

【北鉄バス】

3番乗り場: 乗車、「広坂・21世紀美術館(石浦神社前)」下車徒歩7分

6番乗り場: 乗車(「柳橋」行を除く)、「出羽町」下車徒歩5分

8番乗り場: 乗車、「広坂・21世紀美術館(しいのき迎賓館前)」下車徒歩9分

車にて

北陸自動車道金沢西ICまたは金沢森本ICから20～30分。

近隣に文化施設共用駐車場(無料)があります。

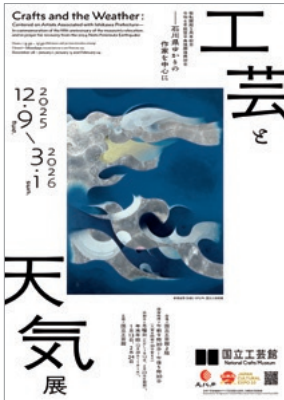


報道関係の方の
お問い合わせ先

国立工芸館 広報事務局(株式会社OHANA内)

Tel: 03-6869-7881 Fax: 03-6869-7801 E-mail: ncm@ohanapr.co.jp

広報用画像一覧



No.1 展覧会チラシ



No.2
三代徳田八十吉《燿彩鉢 創生》
1991年 国立工芸館蔵



No.3
吉田幸央《金襴手彩色皿》
2010年 国立工芸館蔵
撮影：品野壘



No.4
松田権六《蒔絵鷺文飾箱》
1961年 国立工芸館蔵



No. 5
角偉三郎《練金文合鹿碗》
1992年 国立工芸館蔵



No.6
木村雨山《一越縮緬地花鳥文訪問着》
1934年 国立工芸館蔵
撮影：米田太三郎

〔前期展示〕



No.7
番浦省吾《双象》
1972年 国立工芸館蔵



No.8
板谷波山《氷華彩磁唐花文花瓶》
1929年 国立工芸館蔵
撮影：エス・アンド・ティ フォト



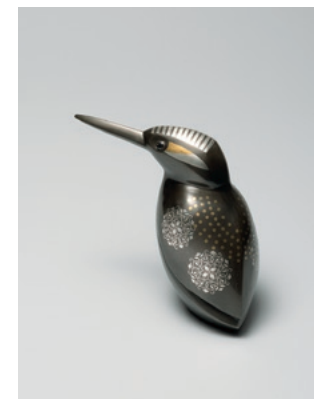
No.9
澤谷由子《露絲紡》
2022年 国立工芸館蔵
撮影：エス・アンド・ティ フォト



No.10
寺井直次《金胎蒔絵水指 春》
1976年 国立工芸館蔵
撮影：エス・アンド・ティ フォト



No.11
水口咲《乾漆箱「新雪」》
2021年 個人蔵
撮影：品野壘



No.12
中川衛《金銀象嵌「翡翠置物」》
2017年 個人蔵
撮影：野村知也

* 上記画像No.1～12を広報用にご提供いたします。
ご希望の方は当館ホームページの画像提供システムよりお申し込みください。
<https://www.momat.go.jp/craft-museum/reproduction>



* 展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用招待券（5組10枚）をご用意しております。
ご希望の方は画像申請の際に「その他」欄よりお知らせください。